



旭川市
鷹栖町

森づくりを楽しむ体験フィールド

大径木が生える豊かな針広混交林に

森林・山村多面的機能発揮対策制度の開始から参加し今年で8年目になります。最近1~2年の活動を中心に報告します。

私たちの森は、40~50年前から未耕作だった8haほどの元農地です。旭川は豪雪地ですが、この森は毎日除雪の入る道路に面していてアクセス性がとても高いので、市民が気軽に集まって活動するにはうってつけなのです。

森づくりは、将来にわたって育てたいと思う木を決めてから競合木を択伐する、という手法で進めています。林業としては必ずしも効率のとは言いえないかも知れませんが、ゆっくり少しずつ木を切りながら森を改良していくやり方です。まず、交付金を活用してササを刈り、森のどこにでも入れるように歩道をつけました。最初にみんなで探して残す木を決め、その成長の障害になりそうな近くの木を選んで切っています。樹種ごとの寿命なども考慮し、「なるほどそういう考えか」「じゃあこっちを選ぼう」などと相談しながら進めています。

また、みんなで伐倒技術を磨こうと、従来の日本型とはちょっと違う「北欧式伐倒」を導入してトレーニングしています。チェーンソー初級者は玉切りの練習から始め、エンジンの回し方など基本操作をマスターしてから、伐倒作業に進みます。二次林なので木の種類も太さもさまざまですが、その人の技術に応じて倒す木を選べるのは、実習林としては利点と言えます。

いろいろな機材をテストしたり体験したりする場所としても活用しています。NPO法人もりねっとなど、交流ある他の里山グループと合同で機械を持ち寄り、実際に試しながら情報交換する貴重な場になっています。たとえば、ポータブル式のエンジン・ロープウィンチは、一人で持ち運べるコンパクトな装置で、伐倒木を引っばって運ぶのにとっても重宝です。また伐倒木を何本かいっぺんに運搬したい時に便利なのが小型林内作業車。ノロノロとはありますが、ササを刈っただけの簡易道でもしっかり働いてくれます。

トレーニングばかりでは味気ないので、今季はツリーテラスづくりに挑戦しました。木を選び、伐倒し、搬出し、皮を剥いて製材し、同じ森の中にテラスを組み立てます。丸太を切断するのに、巨大な手ノコも使ってみて、チェーンソー以前の山仕事がどれだけ大変だったかがよく分かりました。テラスは今、床面まで組み上がっています。

市民が森づくりを学ぶ実習フィールド

さて、僕たちは一所懸命まじめに仕事ばかりしているわけではありません。火を起こしてのんびりお茶を飲みながら森の時間を楽しんでいる人、ツリーイング(スポーツ木登り)を楽しむ人……。森って、もちろん木材の供給源ですし、私たちはこの森を森林作業技術のトレーニング・フィールドと位置づけているわけですが、こうやって「ただそこで過ごす時間を楽しむ」という別の価値観があってもいいのかな、と思っています。

今年度は念願の資材庫を建てました。1階は土間、2階は何人かが宿泊できるロフトです。また今季は活動地を増やしたので、交付金を使ってその場所のササ刈りをしました。

このように、森林を改良していく活動、熟練メンバーによる危険木処理などフィールドの整備をする活動、その過程にみんなが参加して森を楽しむ活動と、まさに多面的な活動ができています。

最後にちょっと宣伝ですが、最近『森づくりとチェーンソー』(もりねっと刊)という教則本を作りました。この森での活動を通してみんなで学んだ成果をまとめています。切るばかりで植えることをほとんどしないのがこの森の活動の特徴かもしれません。そういう森づくりをご提案しています。



かみかわ里山ネット

[報告者]



山本牧さん